



平戸市消防団 団長
もり よしのり
森 能範さん(生月町)

昭和50年に消防団入団。平成20年4月から分団長、平成26年4月から生月地区団長を歴任。平成29年4月から平戸市消防団長に就任し、団員の指揮を執る。

消防団員の皆さんは「自分たちの地域は自分たちで守る」という気持ちを持ちながら、自分や部下の命を第一に考え活動するよう呼び掛けています。

消防士とどう違うの？

消防士は市の職員で、火災、救助、救急活動などを専門的に行います。しかし、市内を消防士だけで対応することは難しいため、地域を熟知している消防団員と連携し、被害の拡大を押さえることが重要です。

消防団員は、火災現場での消火活動、水利の確保、交通整理をはじめ、消防士が消し終わった火事

消防団長のほか、日本消防協会評議員、長崎県消防協会副会長を務めています。

入団以来、火災や災害、事故などさまざまな現場に出動しました。その時々で、判断に迫られ、学んできましたが、今思うのは消防団は地域防災にとって必要不可欠なものだとということです。火災や災害が発生した時に消防士だけで市内全域をカバーすることは難しく、地域のことよく知っている消防団員の存在が重要になります。いざという時に頼れるのは消防団しかないので

必要不可欠な存在

「消防団は地域防災において、

現在、平戸市消防団の団員数は減少傾向にあります。どの地区でも若者不足で、入団する人が少なく、団員を確保するのが難しくなっているのが要因の一つです。また、若者が入ってこないので、団員の高齢化も進んでいます。

このような状況の中で、今後は特に女性消防団員を増やしていくことが重要であると考えています。また、

22歳の時に消防団に入り、10月で

47年を迎えるました。現在は、平戸市

市内の事業所などに協力を得て、従業員の消防団への入団を勧めてもらい団員の確保につなげられればと思っています。転勤などで平戸に来た人も、2~3年だけでも入団してもらえると地域にとって大きな力になります。

地域防災に必要不可欠



川内峠の野焼きで訓示する森団長

平戸市消防団の現状



令和4年消防出初式での分行進

特集

地域を守る身近なヒーロー

災害や火災が発生した時はもちろん、平常時も地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割を担う『消防団』。いつどこで起こるかわからない災害から、大切なまちを守っていくために地域における防災のリーダーとして活動する消防団員の皆さんに迫ります。

問 消防本部総務課消防団係 ☎22-3167

地域を守るヒーロー

消防団は、火災や大規模災害が発生した時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員です。地域を熟知し、住民をよく知る消防団員の存在は、まさに地域を守るヒーローです。

現在、平戸市消防団は団本部役員と女性団員および、各地区の分団員、合計996人の団員が活躍しています。年齢は18歳~70歳までで、会社員や公務員、自営業などさまざま業種の人たちが在籍しています。

消防団員は、すべての消防活動に従事する基本団員のほかに、災害時のみ出動する機能別団員がいます。機能別団員は、令和4年4月現在、62人で、各分団に配属されています。

地区別消防団員数(令和4年4月1日現在)

地区	分団	団員数
団本部		28
北部	1~7分団	205
中部	8~12分団	182
南部	13~18分団	187
生月	1~3分団	165
田平	1~5分団	145
大島	1~4分団	84
計	30分団	996



「自分たちのまちは自分たちで守る」

地域住民の安心・安全のために

市内では、約1,000人が消防団員として活動しています。「自分たちのまちは自分たちで守る」という気持ちで日々活動している消防団員の皆さん。地域の頼れる存在である消防団員の皆さんの思いを伺いました。

女性消防団の活躍

また、年末夜警や防火パレード、
防火診断などを通して、住民の防
災・防火意識を高め、地域の防災力
の向上にも貢献しています。

女性消防団の活躍

本市では、各地区の分団以外に女
性消防団が活動しています。令和4
年4月現在で15人が活動しており、
20代～50代まで幅広い年代の団員で
構成されています。

女性の持つソフトな面を活かして、
学校や施設での住宅用火災警報器の
普及促進、1人暮らしの高齢者宅の
防火訪問、住民に対する防災教育お
よび応急手当の普及指導などを行つ
ています。

消防士とともに地域の安心と安全を守っている消防団員の皆さん。有事の際の出動以外に、仕事やプライベートと消防団活動を両立させながら、いつ出動することになつても対応できるよう、日々消防車や機器の点検に努めています。定期的に行われる幹部訓練や秋季総合訓練などでは、消防士の指導のもと、技術を磨いています。

Interview

「できる範囲で活動できるので

若い世代の人に入団してほしいと思います」



平戸市消防団
女性消防団 団員
たかの ゆうみ
高野 有美さん(下中津良町)

平成30年12月に消防団入団。市内の美容室で働きながら、3人の子どもを子育て中。

何かあった時に知識があれば、子どもや周囲の人を助けることができるのではと思い、女性消防団に入団しました。外出中に意識を失った人の応急処置をした際には、消防団で学んだ知識が役に立ちました。

あるかもしれません、自分ができる範囲で活動できます。団員数が少なくできることも限られているので、難しく考えずに入団してもらえたと思います。私自身まだ入団して短く、産休などで活動を休んでいた時期も

女性消防団員は、基本的に現場に出動することはありません。市民の皆さんへの啓発活動が主な活動で、学校や施設で消防士の皆さんと一緒に救護法やAEDの使い方の講習を行ったり、地域の各家庭を回って、火元の点検などを行っています。

女性消防団員には、私を含め、子育て中の人もいます。仕事や家庭との両立が難しいというイメージが



総合防災訓練で地元の小学生に消防器の使い方を教える女性消防団員

「部下の命を預かる立場として、

気が引き締まる思いです」

入団以来、建物火災や林野火災などさまざまな現場を経験しました。大規模な火災現場や残念な結果になってしまった現場なども経験し、つらい思いをすることもありました。出動するたびに、水利の確保や情報伝達などで難しい状況に直面し、適切な対応をすることの難しさを感じています。

今年から第10分団の分団長となり部下の指揮をとる立場になりました。これまででは、できる限り自分が動いて、下の人たちの見本になるようにと活動してきました。まだまだ、最前線で活動をしたいという思いがありますが、部下の命を預かる立場



令和4年度の幹部訓練で指揮をとる八木原分団長

市内で活躍する消防団員

Interview



平戸市消防団
第10分団 分団長
やぎはら けんいち
八木原 健一さん(紐差町)

平成8年1月に消防団入団。
平成29年4月から班長、令和2年4月から部長、令和4年4月から分団長を務める。

ルールを守り火災を防ごう

問 消防本部予防課予防係 ☎22-3167

これからますます空気が乾燥し、冷え込みが増すため、暖房器具の使用が増え、火災が起こりやすい季節になります。

今年も11月9日(水)～15日(火)まで「秋の全国火災予防運動」が実施されます。火災はちょっとした不注意、不始末から起こります。この機会に防火への意識を高めましょう。

○全国統一標語

「おでかけは マスク戸締り 火の用心」

特に林野火災に注意

市内では、昨年度37件の火災が発生しました。そのうち23件はたき火や田のくり焼きなどが原因で発生したものでした。これらの火災は、次のようなちょっとした油断や不注意で発生します。一人ひとりが火の取扱いに注意することで林野火災を防ぐことができます。

【林野火災が発生した事例】

- ・消火の準備を怠った
- ・風が強く、乾燥していた
- ・火入れをした場所の近くに、燃え広がるようなものがあった
- ・消火が十分に行われておらず、再燃した
- ・一人で作業を行った

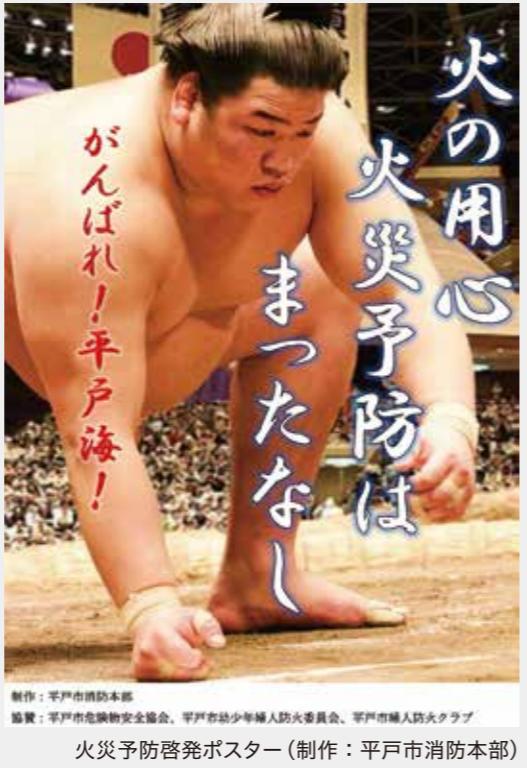


消防署への届出は、たき火などの行為を許可するものではありません。消防署が火災と間違わぬために市民の皆さんに行うものです。また、ごみの焼却などは法律で禁止されており、違反した場合は5年以下の懲役もしくは1,000万円以下の罰金などが科せられます。

建物火災にも注意!住宅用火災警報器の適切な維持管理を

住宅用火災警報器(以下、住警器)は、火災が発生した際に煙や熱を感じて、音声やブザー音で火災を知らせる機器です。一般住宅への設置が義務付けられており、設置場所や取付位置が定められています。

住警器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感じなくなることがあるため、定期的に確認しましょう。交換時期の目安は、約10年です。



地域防災に新たな若い力

次世代を担う消防団員

団員数の減少が課題となっている平戸市消防団。令和4年4月時点で996人と1,000人を下回っている状況です。令和4年度は、新たに平戸市消防団に29人の新入団員が入団しました。地域を守る消防団員の一員となった新入団員に話を伺いました。

今年の4月に平戸に帰ってきました。仕事柄防災との関りが深く、地域との協力も必要だと考えていたので入団しました。

普段の活動としては、月1回の機械の手入れが主なものです。また、第2分団が消防ポンプ操法大会に出場したので、ホース巻きや荷物運びなどでサポートしました。大会にも同行し、各市町村の消防団員の熱気を直に感じることができ、良い経験になりました。

消防団に入団したことでの防災意識も高まりましたが、地域とのつながりもできました。地元とはいえ、大学入学以来、離れていたので消防団員として、地域を守る一員として、つながりができました。



新入団員訓練では、ホースの広げ方などを基礎を学ぶ

でできたつながりが仕事やプライベートでも役立っています。分団の雰囲気も良く、仕事の都合で活動に参加できない時も、協力して支え合っています。まだ、入団して半年ほどですが、地域を守る一員として、頑張っていきたいと思います。

つながりができました

Interview



平戸市消防団
第2分団 団員
やまうち りょう
山内 恵さん(田助町)

令和4年4月に消防団入団。以前住んでいた佐世保市でも消防団に所属していました。

消防団員募集中

地域の防災力を保つためには、多くの消防団員の力が必要不可欠です。18歳以上の働いている人や、女性の皆さんのお入団をお待ちしています。興味のある人は、消防本部総務課消防団係にお問い合わせください。

問 消防本部総務課消防団係 ☎22-3167



消防ポンプ操法大会に出場した第2分団の松永さん(左)と田中さん(右)